

ジャポニズムのスプーン

武内カスノリ

「現代日本人の君の考える日本の”COOL JAPAN”な美って何？」

日本ではスプーンの機能を持つ道具は、縄文の遺跡から漆塗りの木製の”匙(さじ)”が発掘された例があった。金属では平安貴族が銀製の匙を使っていたらしいが、一般的には鍋と共にひしゃくとして用いられたようだ。これは、仏教と共に蓮華(れんげ)として広まったものである。

世界の国々では、スープ皿等の器を置いてスプーンですくう。しかし、日本だけは室町頃より汁椀を手で持って飲むようになった為、匙が、スプーンとして一般化したのは、明治末から軍隊でカレーが食べられるようになってからといわれる。また、蓮華の一般化も中華を食べるようになった明治末期以降である。ジャポニズムは1855年の第3回パリ万博(フランス)でオランダ館でシーボルト等の持ち帰った日本美術工芸の紹介から始まる。第4回パリ万博(幕府、薩摩藩出品)で北斎、広重、歌麿などの浮世絵から陶磁器、漆製品が紹介されたことで日本美術の大ブームになった。

(ちなみに、第1回は、イギリスのロンドン万博。フランス革命100周年記念の1889年のパリ万博で作られたのが”エッフェル塔”である。1873年にはオーストリアのウィーン万博があり、展示された屏風の影響から、ウィーン分離派のグスタフ・クリムトの絵画が生まれ、イギリスのウィリアムモリスのアーツ&クラフツ運動や、アールヌーボー美術になる。)

これがゴッホや、マネ、ゴーギャンなど印象派の生まれるきっかけになった。工芸では、イギリスのティーカップなどに19世紀すでに”IMARI”という名称で今でも呼ばれる伊万里焼磁器の金襴手や、柿右衛門様式のコーヒー。ティーカップが見られる。日本人より日本的なものの価値を知っている欧米人に習いもう一度”日本的COOLデザイン”を考え生活に取り入れよう。

材料 洋白(ドイツシルバー、洋銀)の18cm×3.5cmを用いた段金と、溶接(銀ろう)。

注意・洋白はニッケルと銅の合金であるが、ニッケルの粉を吸い込みすぎると咳き込み、呼吸困難になるので、注意が必要。

時間 20時間から24時間制作

道具 キャンピングガス、金属ノコ、カーボン紙、耐水ペーパー、工業用ウエス、金属磨き、名前用刻印(指輪用)、段金用切り株(表面をスプーン型に加工)

■匙部分に対しては平たいアイスクリーム用、深いスープ用、カレースプーン用(18cm)、コーヒースプーン(12cm)、ティースプーン(14cmから15cm)のように機能によって大きさデザインが変わることを学ばせる。基本的にティースプーンを想定制作。

■ジャポニズムの導入として1年の1学期に行うため、柄の装飾部分のデザインに時間をかけて平面性、アンシンメトリー、有機的美の追求を目指す。

千葉西高校作品

